

わかるぞ！できるぞ！算数

1 単 元 5年 割合

2 本時の目標

- 数量の関係を数直線図に表し、くらべる量を求めることができる。

3 準備物 パソコン、デジタルテレビ、教材（パワーポイント）、実物投影機、ホワイトボード

4 過 程

(1) 学習課題をつかむ。

陸上クラブの定員は15人です。
希望者は定員の0.8倍あったそうです。
希望者は何人だったでしょう。

T 分かっている数量を言いましょう。

C 15人と0.8倍です。

※ 答えを◎で表すことを知らせる。

T 分かっている数量や答えを言葉で表しましょう。

15人 → 定員
0.8倍 → 定員を1としたときの希望者の割合
◎ → 希望者

学習課題

数量の関係を数直線図に表し、くらべる量を求めよう。

陸上クラブの定員は15人です。
希望者は定員の0.8倍あったそうです。
希望者は何人だったでしょう。

15人 → 定員
0.8倍 → 定員を1としたときの、希望者の割合
◎ → 希望者

自分で解決する時間だよ。

※ 0.8倍を言葉で表すときに、**は** **の** **倍** から何を1としているかをつかませる。

T この問題は、くらべる量、もとにする量、割合のうちのどれを求めますか。

C くらべる量です。

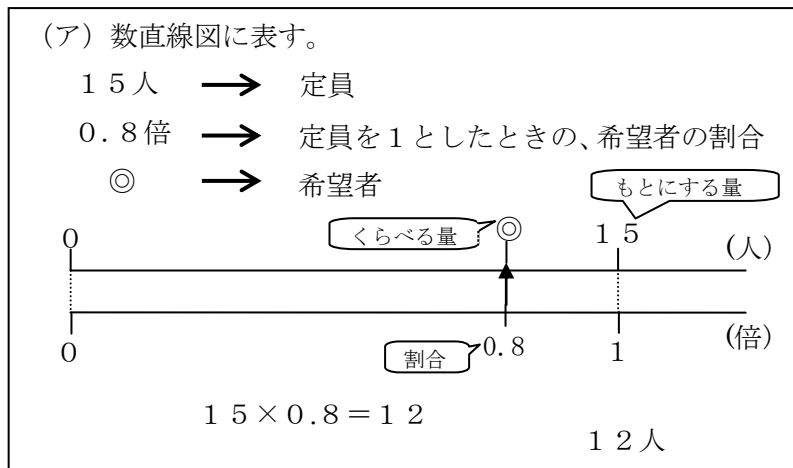
T 今日は、くらべる量を求める問題を解きます。数量の関係を数直線図にかいて答えを求めましょう。

数量の関係を数直線図に表し、くらべる量を求めよう。

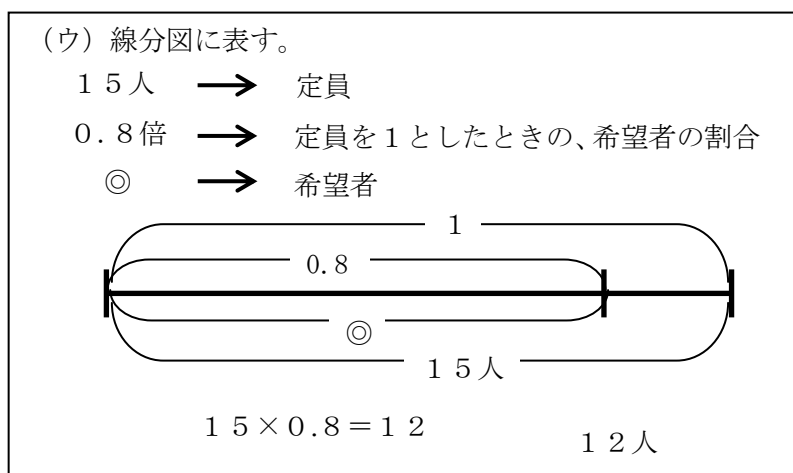
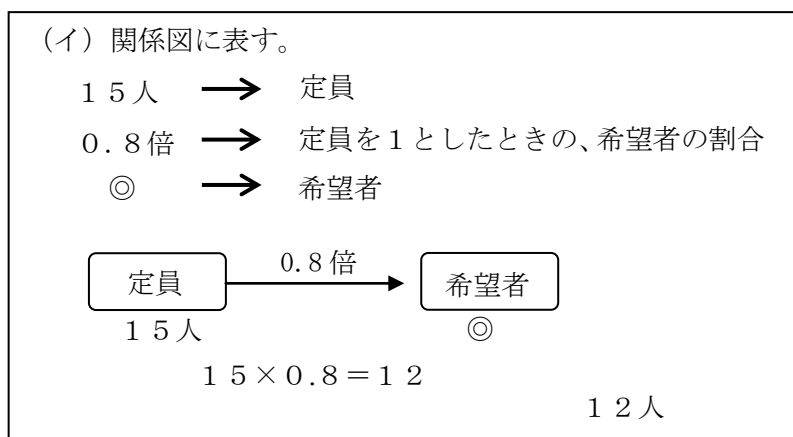
※ 教科書のような線分図や関係図も可とする。

(2) 問題を解く。

※ 児童の反応例



※ 児童が発表しているときに、もとにする量、くらべる量、割合を加筆するとよい。



(3) それぞれの考え方を発表し、話し合う。

T 友達の考えを聞いて、気の付いたことを発表しましょう。

C どの考え方も、もとにする量×割合になっています。

C 数直線図を見ると、割合を求めるときと答えの位置が変わっています。

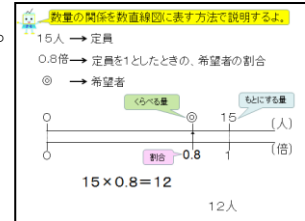
C 関係図も分かりやすいです。

※ それぞれの考え方のよさや共通点を中心に話し合いを進める。

※ スライドを活用して、数直線図に表す方法を十分理解させる。

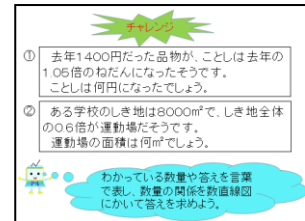
(4) くらべる量を求めることばの式を知る。

$$\text{くらべる量} = \text{もとにする量} \times \text{割合}$$



(5) 練習問題を解く。

T 分かっている数量や答えを言葉で表し、数量の関係を数直線図にかいて答えを求めましょう。



①

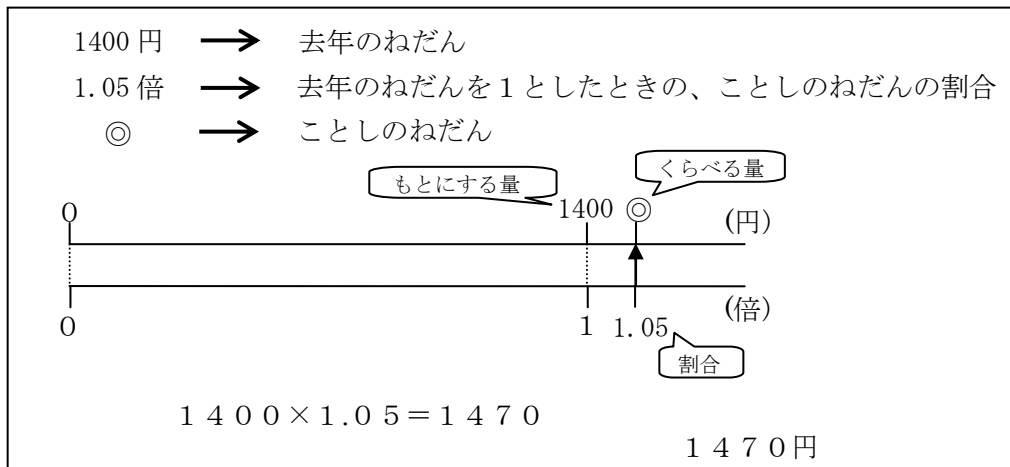
去年1400円だった品物が、ことしは去年の1.05倍のねだんになったそうです。
ことしは何円になったでしょう。

②

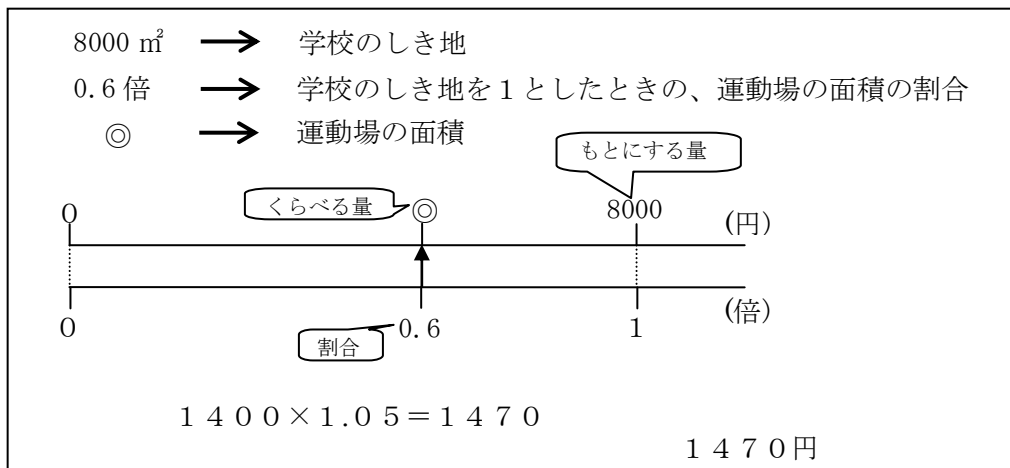
ある学校のしき地は8000㎡で、しき地全体の0.6倍が運動場だそうです。
運動場の面積は何㎡でしょう。

※ 児童の反応例

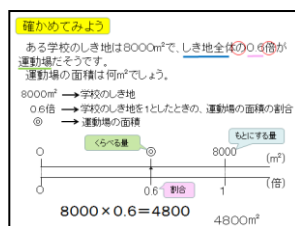
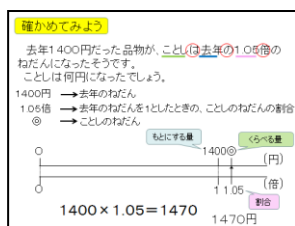
①



②



※ 児童の実態に応じて、スライドで補足説明してもよい。



(6) 本時のまとめをする。

5 板書計画

数量の関係を数直線図に表し、くらべる量を求めよう。

陸上クラブの定員は15人です。
希望者は定員の0.8倍あったそうです。
希望者は何人だったでしょう。

15人 → 定員
0.8倍 → 定員を1としたときの希望者の割合
◎ → 希望者

(ア) 数直線図に表す。
15人 → 定員
0.8倍 → 定員を1としたときの希望者の割合
◎ → 希望者

15 × 0.8 = 12
12人

(イ) 数直線図に表す。
15人 → 定員
0.8倍 → 定員を1としたときの希望者の割合
◎ → 希望者

15 × 0.8 = 12
12人

(ウ) 数直線図に表す。
15人 → 定員
0.8倍 → 定員を1としたときの希望者の割合
◎ → 希望者

15 × 0.8 = 12
12人

くらべる量＝もとにする量×割合